

インフルエンザ発生時の病棟管理(アマンタジンの効果も含む)

Hospital Ward Management of Influenza Virus Infections. (Amantajin's Effect)

東6階病棟：根井きぬ子

〈要 旨〉

インフルエンザは、死亡曲線に影響を及ぼす唯一の疾患である。また、感染力が強いため、流行期には多数の患者が発生する。狭いスペースに多勢の人が集まる病棟では、感染伝播の危険性が高い上、抵抗力の低下した患者では重症化の恐れがある。病棟管理者は、感染予防と重症化を防ぐことが課題である。抗ウイルス剤アマンタジン使用例で、感染期間を短縮できたこと、含嗽励行・マスク着用で予防が推進できた、と考えられたので報告する。

〈キーワード〉

インフルエンザ・アマンタジン効果・予防対策

1. はじめに

インフルエンザは、高熱と全身の関節痛を特徴とし、一般の風邪症候群と比較して重症感が強く、体力が低下している人では死亡することもまれではない。昨年1月から3月の流行では、日本国内で1200名余りの人が死亡している。また、インフルエンザウイルスは、感染力が強いため、流行期には多数の患者が発生する。今年もヨーロッパを始めアメリカ・日本でも患者が激増していると報告されていた。我が病棟においても、平成12年1月10日から一週間の間に、10名の患者が、38℃から39℃の高熱を伴う風邪症状を呈した。インフルエンザ治療薬として、抗ウイルス剤アマンタジンが平成12年11月より使用許可となっているが、日本での使用報告は少ない状況である。発熱者10名のうちアマンタジン使用例と未使用例の間で顕著な差を確認した。更に、病棟内でのインフルエンザ伝播上に特徴が見られたので報告する。

2. 対象および方法

- 1) 平成12年1月10日から一週間にインフルエンザを推測する発熱患者。
- 2) アマンタジン使用例・未使用例の比較(熱型を指標とする)。
- 3) 病棟内病床配置と発症状況。

3. 結 果

- 1) アマンタジン使用例は2日で解熱したが、未使用例は4日から5日発熱が持続した。(資料1・2)
- 2) 同室の含嗽励行・マスク着用患者は、発熱しなかった。(資料3-1)
- 3) 病棟北側の病床群は、発熱しなかった(資料3-2)

4. 考 察

アマンタジン未使用例は、38℃以上の発熱が4から5日間続き、その後感冒症状も一週間から10

日と長引いたため、予定された手術も延期された。体力回復に時間を要し、二事例とも手術は予定日から二週間以上遅らせることとなった。アマンタジン使用例は、2日で解熱し、感冒症状も数日以内に軽減している。両群の比較より、アマンタジンは、抗インフルエンザ効果があり、罹患期間の短縮と身体侵襲を軽減させたといえよう。発熱時点で早期に開始することが重要である。病棟管理者としては、発熱患者の情報をキャッチし、速やかに担当医師へ連絡すると共に、対処方法に関する情報を提供することが必要と思われる。

また、病棟内発症患者をみると、全員が病棟南側の病床からで、北側の病床からは出現していなかった。これは、空気感染であるインフルエンザの特徴であると言えよう。更に、6人部屋の中で、3名の未罹患患者は、化学療法後の白血球減少中でありながら、感染していなかった。同室の6名は、ほぼ同様の生活をしてきたが、未罹患群は化学療法後の感染予防のために含嗽励行・マスク着用を行っていた。これは、インフルエンザウイルスの特徴である低温・低湿、特に低湿での繁殖効果を含嗽励行・マスク着用が予防していると考えられる。インフルエンザの特徴を知り、それに対する処置をする必要性を改めて痛感した。本年は、インフルエンザA型であったため、アマンタジンが著効したが、B型が流行する恐れもある。B型にアマンタジンは効かない上、A型も早期に耐性株が出現する恐れがある。A型B型双方に対応するためには、ワクチン接種を行うことが効果的である。乳幼児・高齢者・抵抗力の衰えた患者、そして医療従事者には、ぜひワクチン接種を勧めべきだと考える。

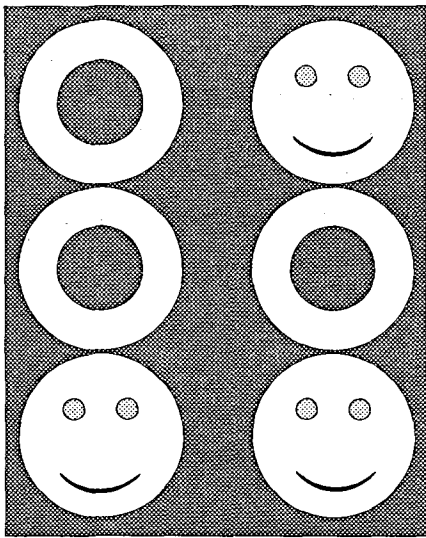
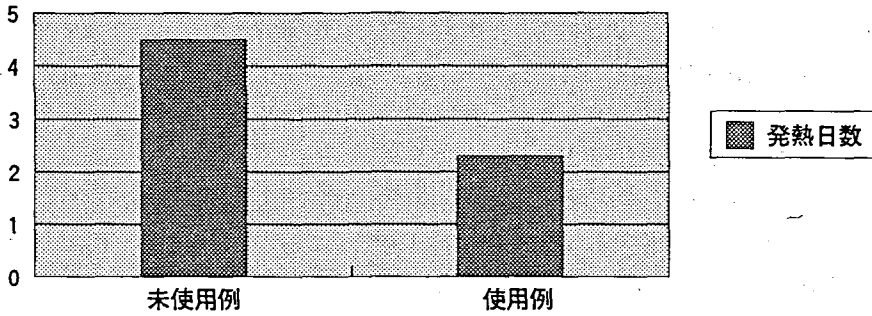
5. まとめ

- (1) インフルエンザA型にアマンタジン内服は効果があった。
- (2) 含嗽励行・マスク着用は、インフルエンザに対し予防効果があった。

参考文献

- 1) 根路銘国昭：インフルエンザウイルス対策—知られざるインフルエンザ危害—，日本薬剤師会雑誌，50(1)65-85，1998.
- 2) 菅谷 憲夫，根路銘国昭：インフルエンザの予防—ワクチンとアマンタジン—，薬局48(12)45-52,1997.
- 3) 菊池 賢：今年のインフルエンザの傾向と対策 :nurse deta, Vol.21, No.2, 7-11, 2000.
- 4) 相川 正道，永倉 貴一：現代の感染症：142-148, 岩波親書 153, 1997版.

(資料1) アマンタジン使用・未使用の比較



(資料3-1) 感染者・非感染者

609号	608号	607号	606号	605号	604号	603号	602号	601号
							ステーション	
618号	617号	616号	615号	614号	613号	612号		611号

(資料3-2) 発熱者出現状況 (病床配置) (感染者 ● と表示)

(資料2) アマンタジン使用例・未使用例の比較

